



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

学校がお金を稼ぐ番外編

日本から寄付していた中古の服を学校に寄付し、お祭りで販売活動を実施した学校がありました。教育系隊員の助言もあり、販売益はグループ学習用の黒板の購入費用に。寄付を受け取るだけでなく、必要なものを自ら手に入れに行くその気概が、これからのマダガスカルの将来に寄与するのではないかと思います。（仲介者に販売許可とりました。）



お祭りを通して学校予算を補てん

～ケーキ作り講習会→販売→利益は学校に寄付～

今年も稲刈りが一段落し、お祭りシーズンの到来です。4～5月にかけて4週連続して小学校のお祭りに参加してきました。日本の小学校のお祭りと言えば、体育祭や文化祭など、成果発表、地域交流などが目的になっている印象があります。昨年参加した時にはよくわかっていなかったマダガスカルのお祭りの目的。それは「**学校予算を補てんすること**」です。公立学校には国から予算が配分されますが、学校修繕費、非正規教員の給料など不足しています。お祭りを利用し、地域の有力者に食事を振舞いお金を寄付してもらったり、保護者から寄付してもらった農産物を競りにかけたりします。予算補てんに貢献できる手段を増やすべく、ケーキ販売を行いました。

①アンジェバストゥ小学校：きっかけは校長先生から**ケーキ販売をしてくれないかと打診**があったこと。全校生徒30人程度の小さな学校だったので売れ残らないか冷や冷やしましたが、首都から遊びに来ていた校長の親戚なども購入してくれて、都会から田舎にお金が出るのを垣間見ました。



②アンピラヌナ小学校：私がケーキ販売をするよりも、先生や保護者自身が調理方法を学び、販売活動を実施した方が後に残ると思い、**お祭**

り前日にケーキの講習会を開催しました。しかし当日は彼らは運営に忙しく一緒に販売活動をすることはできませんでした。

③アンブディフィアカラナ小学校：こちらもお祭り前日にケーキ講習会を開催。当日は一緒に販売できるかと思っていたら、**以前教えた豆乳を販売**するというので、ケーキの販売はまた私がすることに。けれど、以前習ったことを繰り返してくれたことが嬉しかったです。（青いバケツの中に豆乳が入っています。）

④アンタニメナ小学校：自転車片道1時間45分。材料を運ぶ自信がなく、講習会の実施はあきらめました。その代わりに事前訪問した時にいただいたチアシサという豆（小豆に似てます）であんこを作り、ケーキに混ぜました。チアシサは普段、おかずとして食べられているため甘くすることはないので、美味しく食べていました。



ちなみに4か所とも**一番人気はにんじんケーキ**でした。色の鮮やかさに子どもたちは魅力を感じているかも知れませんが、村では材料が揃わないという問題もありますが、**学校予算補てんする新たな手段のヒント**になってくれればと思います。